

カトリック

広島教区報

教区モットーに生きましよう!

カトリック広島司教区長

三末 篤實司教



広島教区が掲げております「モットー」は「平和の使徒になろう」ということです。これは教区の信徒であれば、どなたでもご存じのことと確信しています。これは一年間だけのモットーではなく、今後の教区の全ての活動の基本となっていることを忘れてはなりません。

このモットーを生かすために(一)平和(二)きょうどう(三)養成の三部門にわけ、活動を始めています。

具体的には(一)主の平

和の働き手となること(二)個人・組織・グループの垣根を越えて活動すること(三)キリストに向かつて成長して行くことです。

『平和を実現する人は神の子と呼ばれる』(マタイ五の九)と聖書にありますが、私たちが洗礼を受けたあかしのためにも、これは大きな使命であります。キリストは最後にあたって弟子たちに『あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしなさい』(マタイ二十八の十九)と命じられて派遣されました。私たちは特に堅信の秘跡によってその使命を受けているのです。

神の子として、平和のあかしをたてながら、キリス

No. 73

カトリック
広島司教区

発行責任者
広報担当
服部大介神父

広島市中区鞆町4-42
広島司教館内
TEL (082) 221-6017

トの愛を分かちあい、すべての人が救いの道をたどることができるよう導くこと、このことこそが私たちにとっては最大の責任であり使命でもあります。

広島教区は長崎と共に原爆の悲劇を世界の中ではじめて被った被爆の地です。二度と核の惨劇を招くことがあってはなりません。そのためにも私たちは声を大にして「平和」を訴え、平和の使徒となってその役割を果たすよう神に招かれています。そのために祈り、平和の実現のため最善を尽くしたいと思えます。

皆さまのうえに神の祝福をお祈りいたします。

二〇〇八平和行事 (八月五・六・九日)

「ヒロシマを考えることは平和に対して責任をなうことです」(ヨハネ・パウロ二世)

広島教区は、一九九五年

被爆五十周年を機に、平和のために働くことが、神が広島教区民に与えてくださった固有な使命と受けとめ、「平和の使徒となろう」をモットーとして活動してきました。教皇ヨハネ・パウロ二世の来広を記念する二月と、人類が広島・長崎で最初の核兵器・原子爆弾を使用した八月とに平和行事を重ね続けてきました。今年も「キリストの平和を広げよう」をテーマに、八月五日、六日、九日に広島教区の平和行事が行われます。

この行事は「日本カトリック平和旬間」開始日でもあり、全国から司教をはじめと多く多くの信者が集まります。

日本聖公会とカトリック教会の合同行事も三年目を迎えます。広島平和記念公園内原爆供養塔での祈りに続いて、世界平和記念聖堂まで「平和行進」をします。

世界平和記念聖堂でさざげられる「平和祈願ミサ」は次の世代の世界と教会の核となる若い人たちが、子どもたちを中心にした典礼が考えられています。

今年のトピックスは、クローチアからの平和使節六名が参加することです。旧ユーゴスラビアからの独立(一九九一年)に際して激しい辛い内戦の経験を広島

の経験と共有するために「千羽鶴をクローチアから広島へ」という活動に取り組んでいる人々です。

「被爆証言」は、広島

の平和行事のひとつの中心です。とりわけ、直接被爆の体験をした人が少なくなつていく今は貴重なものです。

平和な世界、人間が人間らしく生きていく社会は、わたしたちひとりひとりが築き上げていくものです。

平和の源である神に「わたしたちをあなたの平和の道具としてお使いください」と祈りながら、具体的な行動へと一歩を踏み出す平和行事とすることができ



平和行事ポスター

教区の動き プレゼン資料の活用を

去る六月八日、二〇〇八年度第一回広島司教区宣教師牧評議会（以下、教区宣教師評）が、広島カトリック会館多目的ホールで開催された。今回の教区宣教師評は、二〇〇八年度・二〇〇九年度の新評議員が招集され、三末司教からの任命書が授与された。今回の教区宣教師評では、次の議案について協議された。

一つ目は「平和の使徒推進本部規約および規約細則」の施行について、内容の確認、質疑応答の後、出席評議員の承認多数により決議された。本決議により、二〇〇六年の平和の使徒推進本部発足から準備検

討されてきた規約および規約細則が二〇〇八年六月八日から施行された。

二つ目は「世界平和記念聖堂保存活用委員会規約」の施行について、概要目的、現在の状況報告、質疑応答の後、多少の文言の修正はあるものの出席評議員の承認多数により、大筋で決議された。本決議により、世界平和記念聖堂保存活用委員会の発足と規約の施行が二〇〇八年六月八日からスタートした。

その他の議題としては、各推進チーム（平和・きょうどう・養成）および在住外国人共生チームから活動報告と今後の取り組みについて、また、各地区および伯雲ブロックから今年の教区テーマ「平和の使徒となるう」今、殉教を生きるとは？」に対する現状報告と今後の方向性について、それぞれ報告と質疑応答が行われた。

また、三時間の教区宣教師評の時間を有効に活用するため、六月初旬、各小教区宛てに配布されたプレゼンテーション資料「今、殉教



広島殉教者④

(前号から続く)

しかし、翌一六〇〇年には早くも広島宣教活動は閉じられてしまいました。

関ヶ原の戦いで豊臣側に組し敗れた毛利氏は、周防・長門の二ヶ国に封じ込められました。

新広島城主となった旧知の福島正則は、熊谷元直を高い禄高で召抱えようとしたが、元直は毛利家に忠誠を尽くし、父祖の地を離れて山口に行きました。

元直は、伝道士ダミアンと共に、司祭不在の山口の教会共同体をリーダーとして教師として支え、保護しました。以来、元直は主君に対しても公然と信仰を表明してはばからなくなりました。一六〇四年、熊谷豊前守は、萩城造営の普請奉行に

任じられ、一六〇五年五月に起きた工事現場での資材窃盗事件の責任を問われ切腹を命じられました。

メルキオールは、殉教の前年に、コロス神父に会い、「従者の全員と共に告解して聖体を受け、また自分が信仰のゆえに被つてい

るあらゆる災難を神父に物語った。そして彼は、常に死を眼前に見る思いであり、すでに自分の首の上に刑吏の刃がおかれています心地が

すること……今はただ毛利が自分の首を打ち落とす時がくるのを待つのみだということ、などを語り、しかし、自分はまた自分に不屈な精神と力を与えてくれる

であるう神に、すべてをゆだねていると言った。(一六〇四年イエズス会年報)

一六〇五年八月十五日、サンタ・マリアの被昇天の祝日に、元直の屋敷は毛利輝元によって送られた武士たちに包囲され、翌八月十日

六日早朝、切腹を拒否した元直は首をはねられ殉教の栄冠を手に入れました。享年五十歳。一族十一人も同時に処刑されました。

三日後、山口の教会の牧者の務めを果たしていた伝道メルキオール熊谷豊前守

直が仕えた主君毛利輝元によるキリシタン弾圧の結果であり、元直は、常に命を懸けて信仰を守りぬく覚悟をし、殉教に備えていました。「この武士はよくイエスの御受難を黙想する人であった」と宣教師の報告にあります。

を生きるとは？〜ペトロ岐部と百八十七殉教者の列福

確認し合った。

は、各小教区における学習と信仰を深めて頂くために

部と百八十七殉教者の列福

なお、平和の使徒推進本部から各小教区に配布された

積極的に活用しましょう。

の内容をテーマに出席評議員が三つのグループに分かれ、三十分ほどの分かち合

「今、殉教を生きるとは？」

使徒推進本部にお問い合わせください。

いを実施しお互いの想いを

ペトロ岐部と百八十七殉教者の列福に向けて」

せください。

椿谷巡礼(鳥取)

四月二十日、浦上四番崩れ鳥取藩流配地、椿谷巡礼を行いました。椿谷は鳥取市立川町にある谷間の呼称で、鳥取教会から徒歩で約二十分のところにあります。江戸時代から明治時代の初期にかけてここに受刑者の牢獄があり、流配者が収監され過酷な扱いを受け、多くの殉教者が出ました。巡



礼当日は天候にも恵まれ、愛徳修道士会のブラザーや愛徳カルメル修道会のシスターも含め約二十名が午前九時半ごろ鳥取教会を出発し、徒歩で当地に向かいました。到着後、野寄神父様の司式で野外ミサを行いました。殉教者の想いを偲びました。毎年恒例の巡礼ですが、殉教地での祈りは、日々

の信仰を省みるよい機会となりましょう。念願でもあった手すりが皆様の寄附によって山道に

乙女峠まつり(津和野)



今年五十六回目の乙女峠まつりを終えることができました。全国から大勢の人達がこの日の為に集い、五月三日はゴールデンウィークの最中と重なり津和野の町が大変混雑します。その中で厳かに巡礼が行われ鯉の泳ぐ殿町から一・五キロ離れたマリア聖堂のある乙女峠まで朝十時半に出発し聖歌を歌いながら歩きます。十二時頃に全員が到着し野外ミサが始まります。ホスチアが千三百個用意されるので未信者や観光客を含めると千八百人くらいの人で埋め尽くされます。念願でもあった手すりが皆様の寄附によって山道に



芳賀巡礼(岡山)

五月二十五日(キリストの聖体)に例年通り芳賀巡礼を行いました。岡山教会では、日本二十六聖人の最高齢者デイエゴ喜斎が生まれ育った芳賀の里へ巡礼を行ってまいります。前日からの大雨で心配されましたが、朝方には、爽やかに晴れ上がり、教会のデイエゴ像前で祈りをして七時、二名で

芳賀巡礼を振り返り、参加者や人数はあまり変わりませんが、高齢化しているのは事実です。十月は鶴島巡礼もあります。十一月の長崎での列福式に向かって気持ちを高めてほしいと願っております。



取り付けられ来年の乙女峠まつりまでには完成します。少人数の津和野の信徒でまつりを準備していましたが、地区の協力により皆様に支えられてできるようになりました。願わくば、百八十八名の列福に続いて津和野の殉教者たちが列福されますように祈るばかりです。

四月二十日、浦上四番崩れ鳥取藩流配地、椿谷巡礼を行いました。椿谷は鳥取市立川町にある谷間の呼称で、鳥取教会から徒歩で約二十分のところにあります。江戸時代から明治時代の初期にかけてここに受刑者の牢獄があり、流配者が収監され過酷な扱いを受け、多くの殉教者が出ました。巡

十一月二十四日列福式を迎えるペトロ岐部と百八十七殉教者。彼らの篤い思いが、今、甦る。勇気と優しさをもって生きるとはどんなことか。四百年前の過酷な迫害の中で、譲ることのできない一念を貫いた百八十八人の殉教者たちが、今に問いかけ、明日への道を示してくれる。名もない素朴な信仰者たちがそっと語りかける、現代社会への希望の福音。生き生きとした文章と美しい挿画、Q&Aや資料、コラムも豊富で、副教材としても最適です。編著『まるちれす』編纂委員会、判型・B五判上製。ページ・百六十頁、発行・ドン・ボスコ社。

〈本の紹介〉
恵みの風にはって
ペトロ岐部と
百八十七殉教者物語

広島司教区司祭役務 (2008年4月現在)

<司教区行政機構> (教区長以外任期役務5年/評議委員2年)

役務 (~ 2010)	氏 名
教区長 教区総代理 教区顧問	三末篤實司教 Fr. 斎藤眞仁 Fr. 斎藤眞仁、Fr. 佐々木良晴、Fr. 後藤正史、Fr. エドガル、Fr. 荻喜代治 Fr. 服部大介、Fr. 原田豊己、Fr. 肥塚倅司
地区長 教区事務局長 教区会計 司教秘書 教区法務代理 教区経済問題評議会	(広島) Fr. 後藤正史、(山口・島根) Fr. 佐々木良晴、(岡山・鳥取) Fr. 荻喜代治 Fr. 原田豊己 Fr. 原田豊己 Fr. アルベルト Fr. 原田豊己 Fr. 原田豊己、Fr. 服部大介、青葉憲明、野間泰治、岡本壮悟、岡本 均、 田淵栄範、柳恵一郎、三登昌二
教区司祭評議会 教区顧問	(~ 2010. 3/31) Fr. 斎藤眞仁、Fr. 佐々木良晴、Fr. 後藤正史、Fr. 荻喜代治、Fr. エドガル Fr. 肥塚倅司、Fr. 服部大介、Fr. 原田豊己
広島地区選出 岡山・鳥取地区選出 山口・島根地区選出 指名	Fr. 山根敏身、Fr. ジェリー Fr. ブレイズ、Fr. 西江和司 Fr. 恩地 誠、Fr. 李 相源 Fr. 瀧井英昭
教区宣教司牧評議会 執行部 広島地区選出 岡山・鳥取地区選出 山口・島根地区選出 伯雲ブロック選出 平和の使徒推進本部 教区事務局	(~ 2010. 3/31) Fr. 後藤正史、Fr. 佐々木良晴、Fr. 荻喜代治 平和の使徒推進本部 Fr. 山根敏身、Sr. 品川ヨシ子、大下達夫、前田輝男、梶山聡子 Fr. レネ、Sr. 高木貞子、伊藤順子、北川弘子、山川雅博・門原加納 Fr. 恩地 誠、Sr. マグダレナ・ビセンテ、木村董太朗、柳恵一郎、田中園子 佐野卓司 Fr. 肥塚倅司、祇山 登 Fr. 原田豊己

<司教委員会> (任期2年・2007年4月任命)

役 務	教区担当	広島地区	岡山・鳥取地区	山口・島根地区
典礼 正義と平和協議会 部落問題 カリタスジャパン 広報 J-CARM	Fr. 山口道晴 Fr. 肥塚倅司 Fr. 野中 泉 Fr. 野寄一夫 Fr. 服部大介 Fr. 荻 喜代治	Fr. 山口道晴 Fr. 肥塚倅司 Fr. 服部大介 (西)Fr. ジェリー (東)Fr. アルナルド	Fr. 瀧井英昭 Fr. レネ Fr. 野寄一夫 Fr. レネ	Fr. 田丸 篤 Fr. 林 尚志 Fr. 林 尚志 Fr. アレックス 榎谷紀子
フィリピングループ ブラジルグループ	Sr. カルメン、Fr. 荻喜代治、Fr. ギャリー、Fr. レネ、Fr. ジェリー Fr. 野中 泉、Sr. 八木橋裕子、Fr. 尾島紀代治			

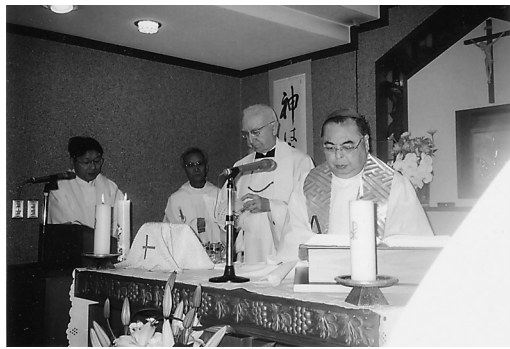
<広島教区独自で司教から任命される担当者> (任期2年・2007年4月任命)

役 務	氏 名
平和の使徒推進本部 青少年 青少年情報センター 高校生中国ブロック大会 練成会 養成担当者 一粒会 平和行事実行委員会 主和の輪 ダミアンの輪 三姉妹教区交流委員会 殉教地・巡礼地ネットワーク 墓地委員会 墓地問題委員会	祇山 登、協働司祭/Fr. 肥塚倅司 Fr. 服部大介 門野 葉 Fr. 荻喜代治 Fr. 服部大介 Fr. 荻喜代治、Fr. 後藤正史、Fr. 原田豊己 Fr. 深堀升治、教区会計/Fr. 原田豊己、養成担当/Fr. 後藤正史 高濱和浩 Fr. 服部大介 Fr. 後藤正史 Fr. 斎藤眞仁、Fr. 金起瑩、Fr. ジェリー、Fr. 荻喜代治、生利工次、青木博彦 Fr. 肥塚倅司 Fr. 後藤正史、事務局長/Fr. 原田豊己 Fr. 野間重信

小さな教会の五十周年

四月二十六日(土)、広島県の北部の盆地、霧の海で有名な三次の教会で創立五十周年を感謝のミサと家庭的小宴で祝った。

三次教会は、ラサール神父(愛宮真備)の種蒔きによって五十年前に誕生した小さな教会である。その教会に、当時スペインから神学生として勉強中のアルバレス神父が志願され、仏教色の強いこの町で、初代主任司祭として福音宣教を始めた。当時この町には信者は二人だけであった。その一人は僻地医療に渾身の努力をされていた女医・林千鶴先生であった。その



方の敬虔なクリスチャンとして働きは地元民から敬慕され、アルバレス神父の惜しまぬ開拓精神と共に、しだいに信者の数が増してきた。十三年後から、次々と七人の神父へと引き継がれ、先輩信者の篤い信仰心と神の愛に包まれながらの五十年間であった。

七年前にアルバレス神父を再びこの教会に迎えることになり、創立五十周年を共に祝いできる喜びは一人であった。三末司祭のご意向と、神の御摂理による恵みとが、私たちのこれからの福音宣教にいつそう活気付けをもたらす動機になればと思っている。八十四歳になられたアルバレス神父様は、今後もその生涯を三次の地で励むよう約束してください。私たちが共にいてくださる神父様に感謝しつつ……(畑一實)

尾道教会献堂式

五月六日(月)午前十時から、千光寺公園のふもとにある尾道カトリック教会(主任司祭・山口道晴神父)の献堂式が三百四十名



余の参加者を集めて、教区長三末篤實司教の司式の下に厳粛にそして盛大に執り行われた。

尾道教会は、戦前の昭和十五年に尾道駅裏の土堂小学校の横にあった民家を借りてイエズス会士のハマエル神父によって始められた。福山・尾三地区では一番古い教会である。

昭和二十八年に現在の地に移転し、その後五十四年間にわたって日本家屋の教会として慣れ親しまれてきた。その教会が千光寺山の緑を映す白亜の新しい教会として竣工された。

新しく宣教の使命を果たす教会として、また地域とともに成長し発展する教会

を目指して歩みを始めることができればと考えている。

また広島教区の多くの皆さまには、多大の献金をいただきましたことを心から感謝しております。本当にありがとうございました。

(山口道晴神父)

分かち合って

六月十五日(日)、山口教会で三末篤實司教・司教叙階二十三周年記念、および金銀祝の感謝のミサ、祝賀会が行われた。金銀祝を迎えられた神父・シスター方に関係する教会・幼稚園から、たくさんの方々が集まり、幼稚園の先生たちが集まり、中にはバス二台を連ねて来



られた教会もあった。四百名以上の人であふれるサビエル記念聖堂で感謝のミサを献げ、たくさんの方々と共に、参加することのできたお祝いの方々(Fr.カンガス・ルイス、Fr.モレノ・アルフォンソ、Fr.オレギ・イグナチオ、Fr.アルテリヨ・ホアン、Sr.ユリアナ・バサン、Sr.鈴木美代子、Sr.佐々木さよ子)は、喜びを分かち合っていた。さらに祝賀会の場所である天使幼稚園ホールも一杯の状態。三末司教も、どうか席や食べ物に分かち合って、みんなでお祝いしましょうと挨拶をされていた。

山口教会の有志による手作りのお菓子と花籠がプレゼントされ、それぞれ喜びの言葉を述べられていたが、ちょうど当日の福音が召命の箇所でもあり、司祭修道者への召命を願う言葉が印象的であった。このお祝いは毎年三つの地区が当番で行い、たくさんの方々にもその喜びを分かち合ってもらえるよう配慮されている。来年は岡山・鳥取地区の予定。(服部大介神父)

全国広報担当者会議

去る六月十六日(月)〜十八日(水)、東京潮見のカトリック中央協議会において、全国広報担当者会議が開催され、全国(名古屋教区と大分教区を除く十四教区)から二十三名が集った。

今年十一月に長崎で行われる殉教者の列福式を見すえて、「ペトロ岐部と一八七殉教者列福式を控えて―カトリック広報担当者への期待とその責務」とのテーマで、溝部修高松司教を講師に迎え、ヨハネ・パウロ二世教皇が来日された年から始まった列福運動の歩みと、今回の百八十八名が選ばれるに到った経緯についてのお話を伺った。

それに引き続き、列聖列福特別委員会秘書の平林冬樹師(イエズス会)は教義の面から、列福や列聖について説明され、参加者とお二人の間に、活発な質疑応答があり、日本二十六聖人や聖トマス西と十五殉教者は、修道会主導の、また日本二〇五福者殉教者はローマ主導の列聖、列福であったの

に対して、今回のペトロ岐部と一八七殉教者は日本の司教団主導でその準備が進められてきたこと、日本の教会の活性化のためにも、日本人信徒を中心に選んだこと、などが説明された。

殉教者とその列福の啓蒙のために尽くしてこられた溝部司教は、この数年で殉教者に対する、司祭の関心が大きく変化したこと、また今後のために若手の歴史家の育成が急務であることについても語られた。

十一月の列福式に向けて各教区とも準備が進みつつあるが、具体的な目標に向かって、今後、中央協議会、および長崎教区広報委員会と連絡を取っていく上で、よい出会いと準備の場となった。



地区便り

山口・鳥取地区

《信者養成研修会》

七月十二日(土)〜十三日(日)に、山口・鳥根地区信者養成十一期生第二回の研修会が福岡黙想の家で行われた。百瀬神父の講話を聴いたあと、三つのグループに分かれ、三つの講話の「考察のポイント」を参考に、祈りや奇跡、ミサについて分かち合い・発表をした。

《日韓合同キャンプ》

七月二十六日(土)〜二十七日(日)、山口・鳥根地区少年の集い日韓合同キャンプ第二回研修会が山口で行われる。この研修が終われば、いよいよ八月六日(水)〜十二日(火)までの「第十三回日韓合同キャンプ」となる。中高生三十二名に田丸神父/団長(山口)、通訳を兼ねた姜神父(松江)、李神父(彦島)、韓国人・日本人・アフリカ人シスター五名、リーダー十二名、看護士一名が釜山の南川教会とのキャンプに参加する。

海峡からの風 11

下関労働教育センターだより

●松葉杖で歩いてでも話しをしに、全国を駆け巡る人です。●高い祭壇が苦手で、すぐ降りてきて説教をする人です。●人間の過ちを「罪ではないの、愛が足りないの」という人です。●「神父様」と呼ばれるのがイヤで、ひとりのキリスト者としてイエズスの話しをした人です。●下関労働教育センター所長、林尚志神父。「所長」もイヤみたい)●神父さんは、寄付と共に講話や黙想会の謝礼のほとんどを長年、センターの維持のため費やして来ました。そして今年、もう七十四歳になります。●このままではいけないと二年前に信者と市民の有志が集まり「センターを支える会」を作りました。そして、応援をしてください。方々の知恵を頂き、この度正式にセンターの運営委員会が発足しました。●理事には教区から肥塚神父さん、イエズス会から、

福岡の浦神父さん、下関の李神父さん、ACO(カトリック労働者運動)の岩本さん、元市立大学学長の堀内さん、平和運動に携わっている医師の赤司さんなどなど。●多くの人々からこれまでのセンターの活動が評価され、これからのビジョンに夢を託して協力してくれれます。●初めての運営委員会が終わって、林神父さんの顔が海峡からの風に「ほっ」と、ほころびました。●でも神父さんは、きつとこれからも全国を飛び回るのでしょうね。知っている人にも、知らない人にも会いたくて。●お願いがあります。どうぞ「支える会」の会員になっていただけませんか? 頂いた会費はセンターでの活動や維持に使います。また、センターの活動や催しをご案内する冊子「海峡からの風」をお送りします。●年会費三〇〇〇円。郵便振替〇一三四〇一五―三三三三二。下関労働教育センターを支える会。(細江教会・廣崎隆一)

J-CARM 広島便り ブラジル移民百周年記念式典に参加して

八木橋裕子

ブラジル移民百周年の記念を、神戸から一九〇八年四月二十八日に七八一人を乗せて笠戸丸が出航したメリケンパークで四月二十七日に盛大に祝いました。日本各地に散在しているブラジル移民移住労働者や南米の他の国々及び日本人も加わり、メリケンパークには約

千人位の人で賑わいました。式典は十時の共同司式のミサで開始、さいたま教区の谷司教と数十名の司祭の共同司式、アコーデオン伴奏の力強いポルトガル語の聖歌で百年祭の恵み感謝、賛美しました。続いて市長、ブラジル総領事の祝辞等がありました。広場には種々の国の

平和の使徒推進本部

移 転

四月から六月までの三カ月間、肥塚神父様の部屋にヤドカリしていた平和の使徒推進本部が、教区本部事務局の一遇に部屋をいただきました。この部屋は、平和の使徒推進本部にふさわしい場所にあります。なぜ？と言えば、世界平和記念聖堂の塔に記された聖堂記がとてよく見える位置にあるからです。

聖堂記は告げています。「この聖堂がずっと伝えていかなければならないもの

は、虚偽ではなく真実、権力ではなく正義、憎悪ではなく慈愛であり、これが人類に平和をもたらす神への道なのです」と。そうであることを願い続け、聖霊の導きに委ねて、この部屋から発信し、遣されていきますと思えます。ここは全広島教区民の皆さんの部屋でもあります。いつでもお立ち寄りください。

広島カトリック会館二階

Tel : 082-221-6613

(☞番号が変わりました)

Fax : 082-221-6019

料理の売店や飲食物の店もこの時ばかりと観客を引寄せていました。ブラジル独特の料理シユラスコの店の前では長蛇の列で、味わえた人は幸でした。午後からはサンバ等賑やかなラテンアメリカブームが続きました。

広島の参加者は約百人前日の貸切夜行バスで参加しましたので、最後まで残らず、午後四時に神戸を後にしました。一人のペルー人の女性は最後のサンバ行列まで残れなかったのが不満で一人ぼやいていました。祭りの好きなブラジル人はこのような行事への誘いには少々無理をしても反応しますが、ミサへの参加は限られた人以外にはあまり積極でないことは少し残念に思っています。

携帯でホームページ

広島司教区HPが携帯電話でも閲覧できるようになった。搭載カメラを利用すればQRコードからアクセスが可能となる。



QRコード

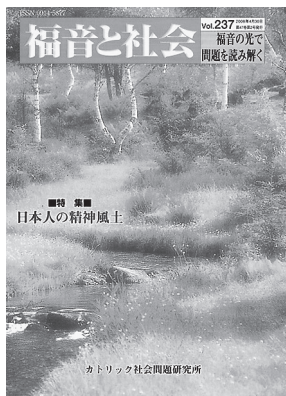
カトリックの雑誌 11

カトリック社会問題研究所

『福音と社会』

小誌は、カトリック社会問題研究所が編集・発行しています（A五判 四十八頁 隔月刊 一部税込五百円 年間購読料は税・送料込三千円）。モットーは「社会問題を福音の光で読む」で、今日の社会問題を福音的に考察して解説した論文、会員の研究、霊想等を掲載し、その他内外のキリスト教情報を発信しております。

当研究所は、一九六二年、日本が高度成長期に入り始めたころ、パリー外国宣教会J・ムルグ神父の提唱によって発足した信徒有志の研究団体です。爾来半世紀近く、時代の流れに伴って起こる社会問題に深い関心を抱く方々が自らのスタンスを明らかにするための参考としていただければと『福音と社会』の発行を重ねてまいりました。現在は、O・シエガレ神父が



協働司祭をつとめてくださり、真生会館、NPO法人「愛と希望」との協力体制のもと、若い世代との連携も模索しております。また、同研究所は、毎年一回二日間（本年は七月十九・二十日、於真生会館）、「社会問題研究所夏季セミナー」を開催しています。数年来日本を風靡している乱世といえるような状態の中、今年のテーマでは「地域社会」を切り口とし、「人間らしく生きる共同体」をつくるにはどうすればよいかを探求します。セミナー内容は、八月末日発行の二三九号（セミナー特集号）に収載する予定です。

雑誌『福音と社会』の購読および投稿、その他についてのお問い合わせは、カトリック社会問題研究所
(Tel : 03-3362-4659
Fax : 03-3362-4647) まで
お気軽にどうぞ。

《青少年の活動》

第42回 中プロ

そのまんま私



三月二十五日から二十八日、山口のサビエル高等学校で、中国プロロックカトリック高校生大会が開催され、各地から百名余りの高校生が参加しました。

今回のテーマは『そのまんま私』。自分を知り、自分の良いところも悪いところも受け入れることができようになりたいという考えから生まれたこのテーマのもとに、グループごとの

分かち合い、講話、自分を振り返る時間など、高校生が主体となつて考え実行し、充実したプログラムの四日間でした。

教区青年大会

未来の教会2

四月二十六、二十七日、エリザベト音楽大学西条学舎で広島教区青年大会が開催され、約五十名の青年が参加しました。

今回の青年大会では『未来の教会』について考えることと、もう一つ、シスター山本の『現代の私たちにとって殉教とは？』をテーマにした講話を通して殉教について考え、分かち合いをしました。また、列福式に向け全国の青年の間を回っている「証し灯」とともにミサをささげました。みんなでもともに考え、心を一つにして祈り、「未来の教

会」への一步を踏み出せた二日間になりました。今回は参加者に感想文を書いてもらいました。その中の一つを紹介します。

（去年と違ってテーマが

決まっていけない分かち合いで、最初は難しいなあと思つたけれど、その分自由に色々な話が出来て良かったです。殉教者のことも、自分の身近なこと、身近な人としてなかなか実感出来なかつたけれど、自分のことに置き換えて、実行することが大切なんだと思ひました。今回の青年大会を通して、一人ひとりの個性を受容することの大切さ、人の関わりの中で神様と出会うこと、新しい場所へ飛び出して、新しいことを始める勇気を出すことを学びました。）

「傷跡の意味するもの」

平和の使徒推進本部 援助修道会

山本紀久代



広島教区の皆さん、お久しぶりです。以前、広島教区青少年情報センターの専従者として働いており

ここで専任本部員として働くことになりました。どうぞよろしくお願いいたします。

ました、山本紀久代です。五年半ぶりに広島に戻り、この四月から教区の「平和の使徒推進本部」というと

わたしは、二〇〇二年に広島教区を離れてから三年ほどシカゴにいて、その後、東京と名古屋を経て現在に至りますが、その間の広島教区に刻印された使命の意味を、ますます強く感じるようになりました。



罪深さによって貫かれたイエスの脇腹の傷が、この世界に、それをはるかに超える神の愛と赦しを注ぐ源泉となつたように、一発の原子爆弾が切り裂いた広島という街は、世界に戦争と平和、赦しと和解について問

人間のあらゆる愚かさや罪深さによって貫かれたイエスの脇腹の傷が、この世界に、それをはるかに超える神の愛と赦しを注ぐ源泉となつたように、一発の原子爆弾が切り裂いた広島という街は、世界に戦争と平和、赦しと和解について問

いける泉であり続けるのではないのでしょうか。その広島教区の一員として、世界平和記念聖堂をカテドラルとする教区に生きるキリストを信じる者として、小さな身の回りのことから始めて、この世界にキリストによる平和を生んでいきたい。限界だらけのわたしたちではありませんが、一緒に平和の使徒となっていきたい。

その歩みを皆さんと共にすることを願つて、これから「平和の使徒推進本部」の一員として、活動していきたいと思つていきます。



パウロ年が始まりました。パウロからの現代へのメッセージを改めて考えて見ませんか…… (にん)